

平成21年2月

# 藤岡真治 学位論文審査要旨

主 査 西 村 元 延  
副主査 清 水 英 治  
同 井 藤 久 雄

## 主論文

Expression of minichromosome maintenance 7 (MCM7) in small lung adenocarcinomas  
(pT1): Prognostic implication

(小型肺腺癌におけるミニクロモソームメンテナンス7発現：予後との関連)

(著者：藤岡真治、庄盛浩平、西原圭祐、山家健作、野坂加苗、荒木邦夫、春木朋広、  
谷口雄司、中村廣繁、井藤久雄)

平成21年 Lung Cancer 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

腫瘍径3 cm以下の肺腺癌切除症例100例から採取した腫瘍組織を用いて、細胞増殖マーカーであるMCM7発現と早期肺癌の予後について検討した論文である。MCM7高発現群は、対象症例全体でも、リンパ節転移症例を除いたStage I症例でも有意に予後不良であった。多変量解析の結果、MCM7高発現は独立した予後因子であった。

本研究はMCM7発現が未だ予後予測困難とされている小型肺腺癌やStage I肺腺癌において有力な予後因子となる可能性をはじめて示唆したものであり、その結果は肺癌研究および治療に貢献するとともに明らかに学術の水準を高めたものと認める。